

読んでみよう 解いてみよう
さん太のワークシート

中高生ら10代の若者が気軽に立ち寄れる「ユースセンター」が真庭市内に誕生します。記事を読み質問に答えましょう。

低学年もチャレンジ!

Q1 センターは、家や学校と違う「第3の居場所」を想定しています。みんなならここでどんなことをしてみたいかな。写真も参考に答えてみて。

Q2 施設は空き家を活用して整備します。場所はどこになりますか。空欄を埋めましょう。

_____ 前から

_____ 東へ約 _____ メートル

Q3 ルールや備品などはオープン後に利用者たちと一緒に考え、更新していく計画です。掲げているコンセプトは何ですか。第4段落から抜き出してみよう。

過去の問題は
 こちらから▶▶



◇「さん太のワークシート」は自由にダウンロードして、学校や家庭での学習に活用してください。

真庭・久世にユースセンター

中高生ら10代の若者が気軽に立ち寄れる「ユースセンター」がJR久世駅（真庭市久世）近くに誕生する。家や学校と違う「第3の居場所」として、放課後や休日の時間を過ごし、同世代や多様な職業の大人と交流できる場を想定。地元の民間団体が9月中旬のオープンを目指している。（中浜汐里）

中高生に第3の居場所



ユースセンターのリフォーム作業に取り組む森年さん



ユースセンター開設に向けて改修中の空き家

取り組むのは、元高校教諭の森年雅子さん(36)＝同市余野上＝を代表に、現・元教員や経営者ら11人で構成する「manabo_de」。教育について勉強会などを行う中、地域では、少子・過疎化で部活動の種類や遊ぶ場所が減少し「多様な価値観に触れられる機会が少なくなっている」（森年さん）と企画した。施設は久世駅前から東へ約500mの2階建て空き家（延べ204平方m）を活用。1階は卓球台や読書スペースなどのある遊び場とし、2階は勉強部屋やパソコンルームにする。働き方や生き方の参考になればと、看護師やカメラマンらをスタッフに招き、若者と交流してもらおう。「自分たちでつくるユースセンター」をコンセプトに、利用のルールや備品などはオープン後、利用者たちと一緒に

考えて更新していく。森年さんは「若者もそれぞれ生活の不便さを感じている。多感な時期の成長を促す場になれば」と意気込む。8月初旬の作業終了を目指し、中高生や地元住民らボランティアと週2回ほどリフォームに取り組む。誰でも参加可能。作業日は団体のInstagram(manabo_de)などで告知する。

9月オープン 地元の民間団体 多様な職業人らと交流